

Q. 新十津川保育園の運営体制に懸念はないか

Q. 子ども読書活動推進計画について

の特効薬とは考えませんが、消費者の関心は、価格もさることながら生産地、栽培過程等に注目し、より安全安心なものを選択することにある。

ブランド化推進協議会から「新十津川町の農産物は安全安心なもの」との印象付けの手段として、また、他市町村との差別化を図る手段としてロゴマーク貼付を提言いただいたので推進する。町が農産物の新品種の開発や栽培、加工、販売をする活動は考えていないが、このような行為の支援は重要であり、可能でもある。すでに、販路拡大や付加価値向上事業、新品目生産体制整備の支援方は周知済みであるが、これらの事業が軌道に乗り、さらなる支援の必要性については検討したい。

かおる園の経営実態について

質問 民営化されたかおる園で介護職員の退職を心配する声を聞くが、その実態と経営内容を伺う。

町長 かおる園の職員数は、介護保険法で定められた基準以上の職員が配置されている。介護に熟練した経験豊富な職員の退職は、利用者やご家族等が不安な気持ちを持たれることは理解できる。明和会は平成22年度から、臨時の介護職員や看護師の増員を図るとともに研修を充実させつつ特色ある行事等を実践し、利用者の満足度を高める介護施設を目指している。経営内容も黒字決算を続けており、健全かつ安定した運営となっている。

新十津川保育園の運営体制に懸念はないか

質問 新十津川保育園は入園児童数が年々減少しているが、保育士の配置実態や今後の運営に懸念はないか。

町長 保育園の在籍園児は、平成18年度の91人をピークに減少が続いている。要因は、歯止めがかからない少子化傾向、現下の景気低迷に伴う雇用環境の悪化により、親が就

労できず入園要件に満たない幼児の増加が考えられる。

保育士の配置人員は、入園児童数に応じて国の定めがあり、指定管理者はそれを遵守し保育業務に従事している。加えて、障がいをもつ園児も通園しており、必要な保育士を増員し配置している。さらに、送迎バスを利用する園児の安全を確保すべく添乗保育士を配置するなど、適正な人員配置に配慮した運営費を支弁している。

保護者から、保育士が若く経験の乏しさを心配する声もあるが、園内での研修や各種研修会の積極的な参加を促し、保育技術の向上に努めるよう配意していく。また、保護者、指定管理者、行政関係者の必要に応じた協議の場を設け、保育内容の充実を図りたい。



新十津川保育園

子ども読書活動推進計画について

質問 子ども読書活動推進計画の樹立により、子どもの読書環境がどのように変わるのか伺いたい。

教育長 豊かな人間形成を図る上で、子どもの発達・成長期の読書は、不可欠なものであり、この計画は社会全体で子どもの読書活動を推進するために策定したものである。絵本ふれあい事業による本との出会いに始まる就学前児童の読書習慣の定着や小学校図書館の蔵書内容の充実、幼児や親子を対象とした読み聞かせ会、学校での朝読書を継続しつつ、家庭や保育園、幼稚園、そして小中学校において、本に親しみ、読書への興味が一層助長されるような環境づくりに努めたいと考える。